



うそなよき

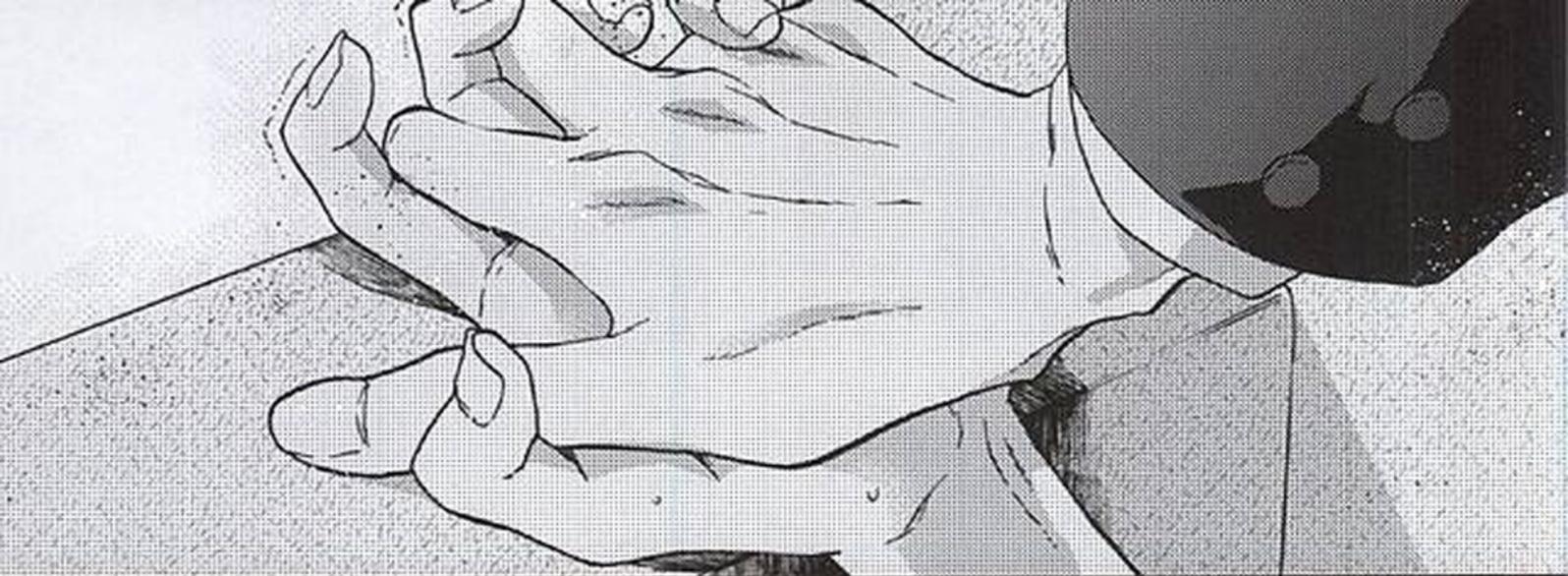
前編

R18

KOGITUNEMARU

×

NAKIGITUNE



痛かった訳じゃない。









眼を
閉じたら

涙がこぼれた。



んっ…

それ以来
小狐丸は俺に触れない。



歴史改変の
危機も
なくなった今

刀剣達は
任を解かれ
それぞれが望む
生活を
与えられた。

刀に戻った者。

人の中で
生きようと
出て行く者も…

本丸に
残った者。

小狐丸…

行くの？

ああ

これで…



諦めもつく

俺も…

栗田口の者は
皆残るので
あろう？

お前に人の世は
きつと
不便じゃぞ

平気

連れてって

俺

と、

一緒…



駄目？



あのな…



私の気持ちは
知って
おろう？

私も
獣の雄ゆえ

好いた者が
近くにおって

手を出さずに
いられるほど
堪え性がある
わけじゃないぞ。



いい…



意味が
伝わら
なんだか



はあ…

ヒクッ

俺も
小狐丸の
こと

好き

だから



お主は
手籠めにされるの
じゃぞ？

共にいれば

近いうちに





お主の「好き」は
ただの
無い物ねたりじや



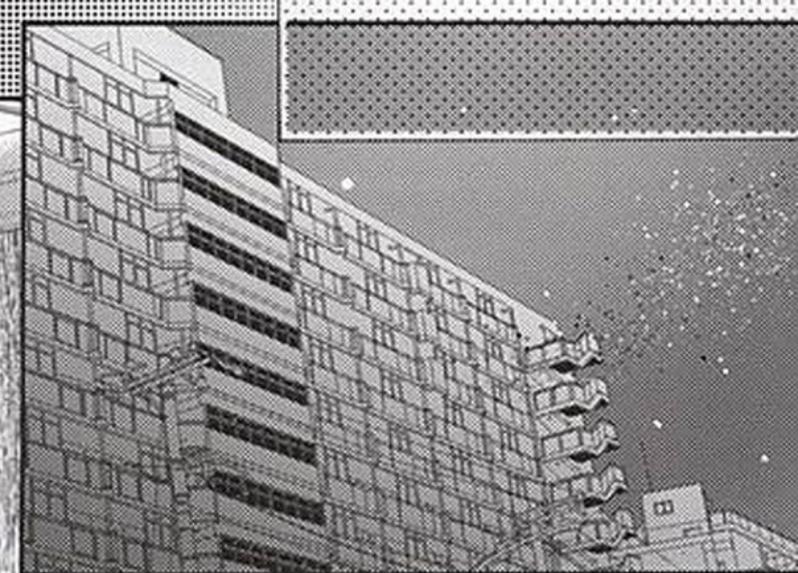
手放す機械を
失って
しもうた。

私の決意を
どうして
くれる

鳴狐は
甘える相手を
欲している。

私の
ものとは違う…







口布、
暑くない
のか？

平気



ほっ
ほっ



ちよこっ



気の張り方が
不自然じゃ

側に寄れど

一足詰めれば
その分引いて

必要以上に
触れては来ない。





覚悟はあれど、
抱かれたくはない……か。



一応、
私の云った事を
理解はしている
ようじゃな。



仕事？

ここの生活も
落ち着いて
きたしの

そのような事
せずとも
主殿から頂いている
給金で十分なのは

一度普通の
人間のよう
に職に就きたい
と思っておったんじや







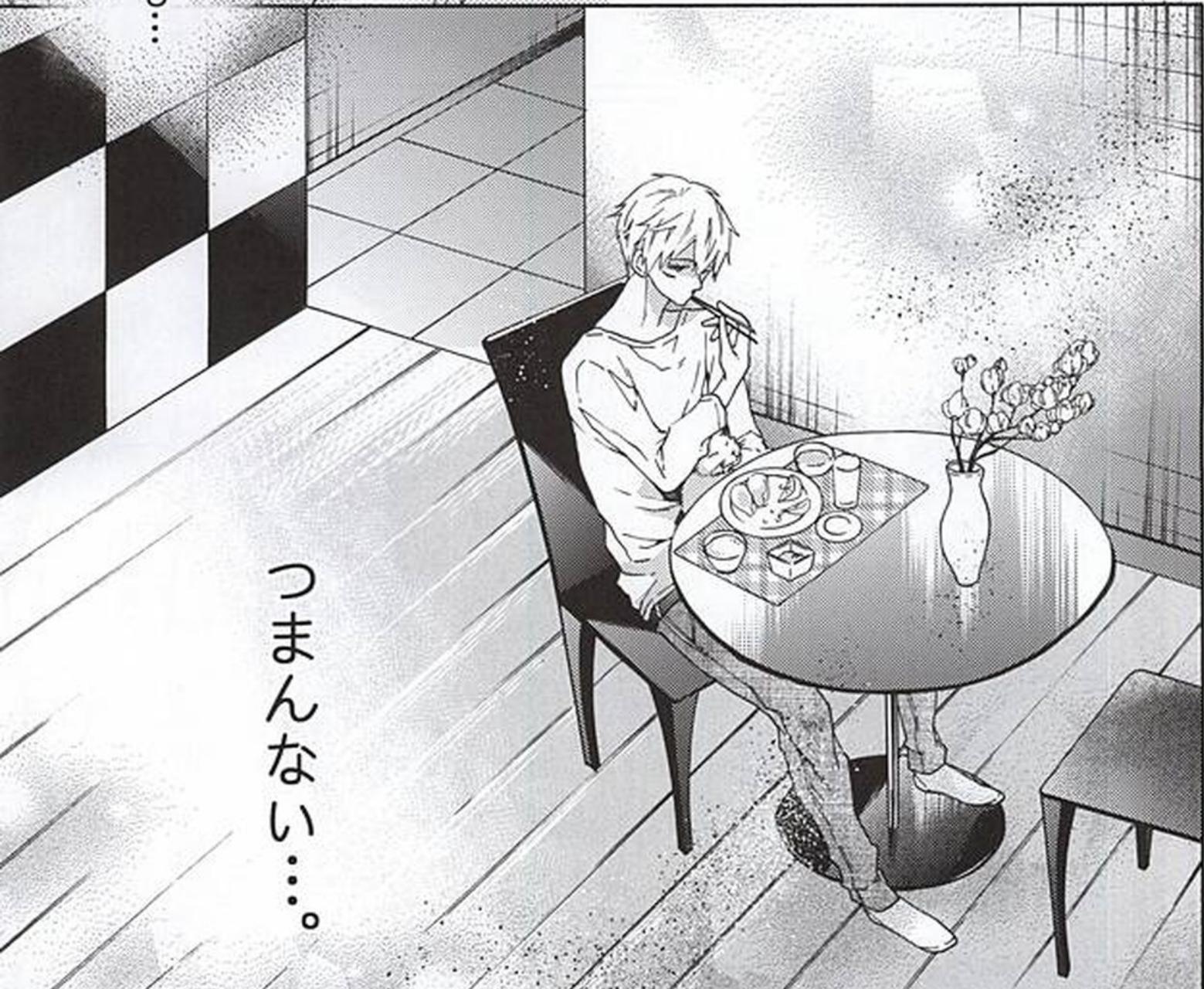
退屈…



小狐丸も…



畑もないし、
馬もない。



つまんない…。



今日
初出勤の人？

ええ



小狐丸と
申します

どうぞ、
お見知りおきを

何キヤラ？
サムライ??

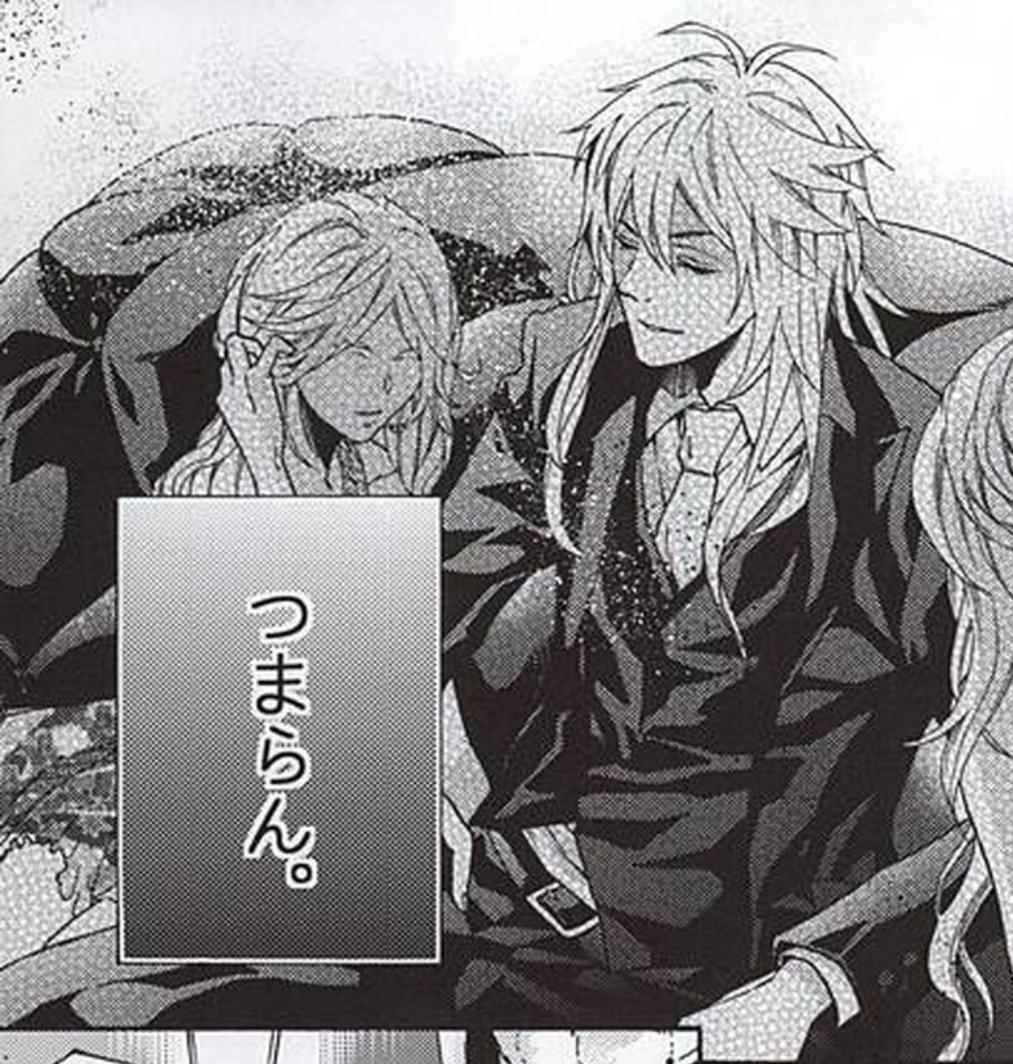
そめ
ウツクダ？

こめは
自毛です

鼻が曲がりそうじや

美酒もこの臭いの
中では台無しじや

獣の鼻には
キツイのう



つまらん。



ただ酒を注いで
女子と他愛もない
話をするだけ



それより
も…

あちらの方が
惹かれるのう



私一人なら
いざ知らず



いやいや



鳴狐がおる故、
向こう見ずなことば
できん。



この仕事は
向かんのう

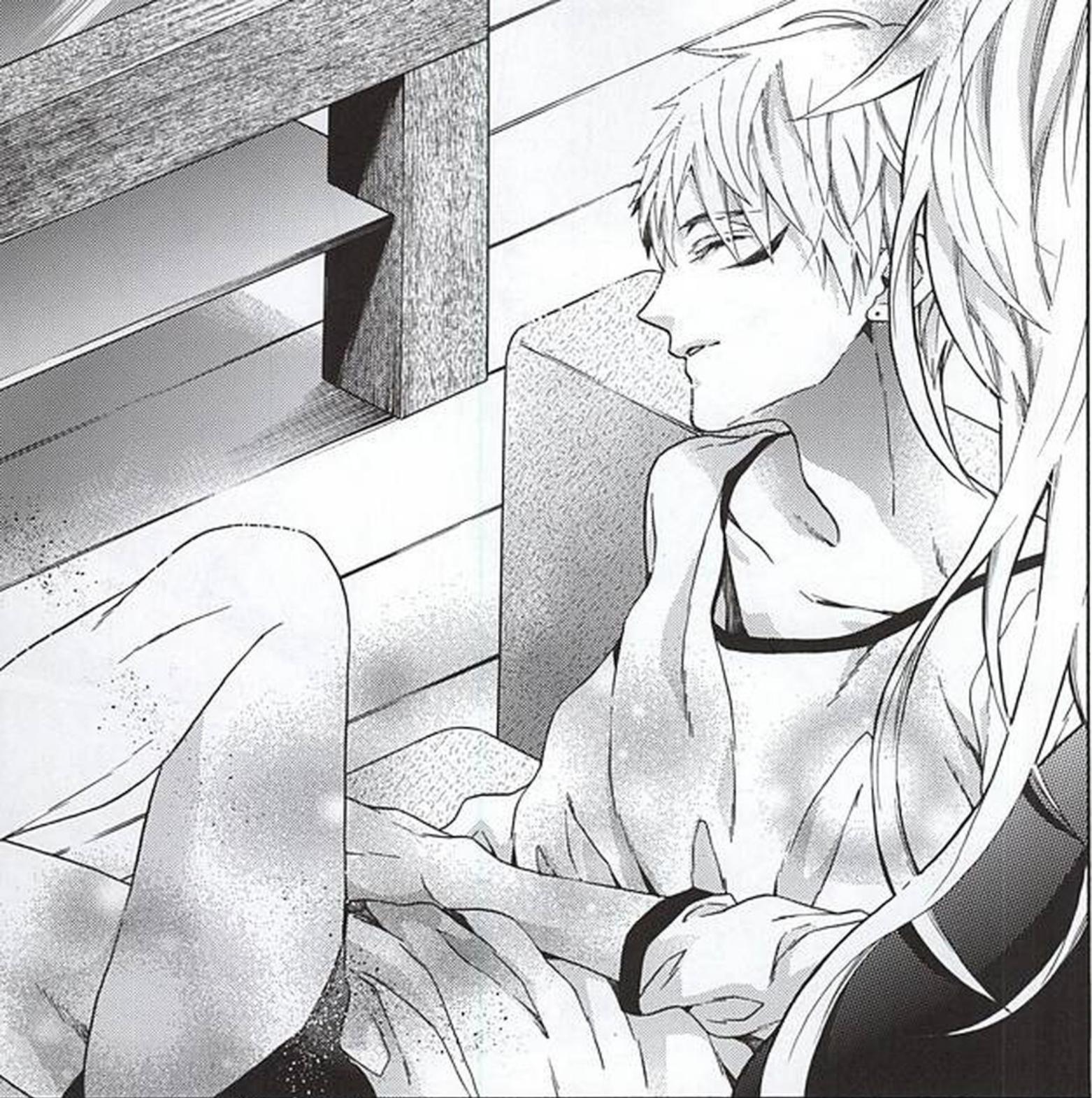
鼻が
麻痺しそう
じゃ

店に泊まる
つもりであつたが、
帰ってきて
しもうた

鳴狐は
もう寝てるかの

灯りが
付いたまま…?

消し忘れか？





あっ…

隙を
見せれば
どうなるか

初めに
忠告したで
あろう？

小狐丸っ！

私なら
手は出さぬと
思うたか。



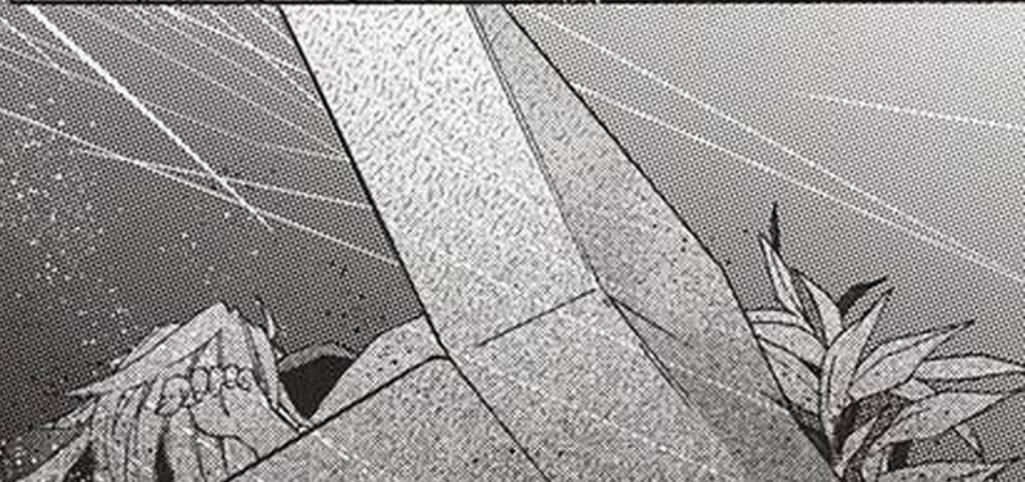
お酒…

酔っ払って
る？

好いて
くれぬのなら
いらんのじゃ。



元よりあの時
手放す気で
おったのに……





そんなんで
止めると
思うたか？





じゅ
ん

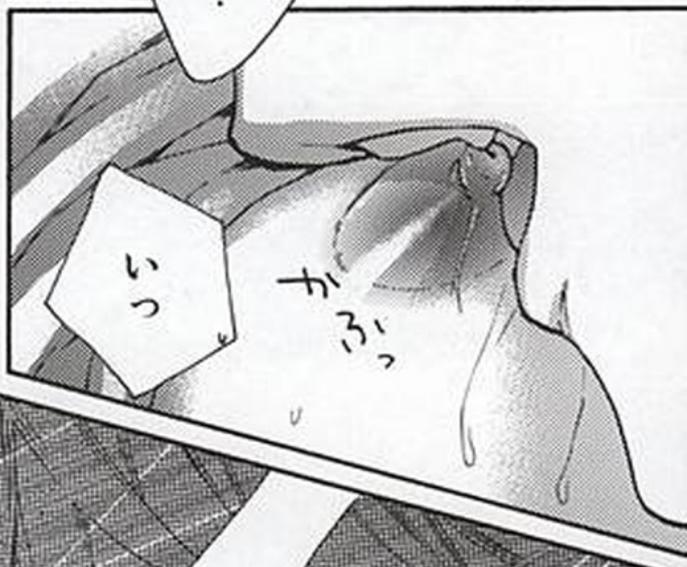


やっ!

ま...

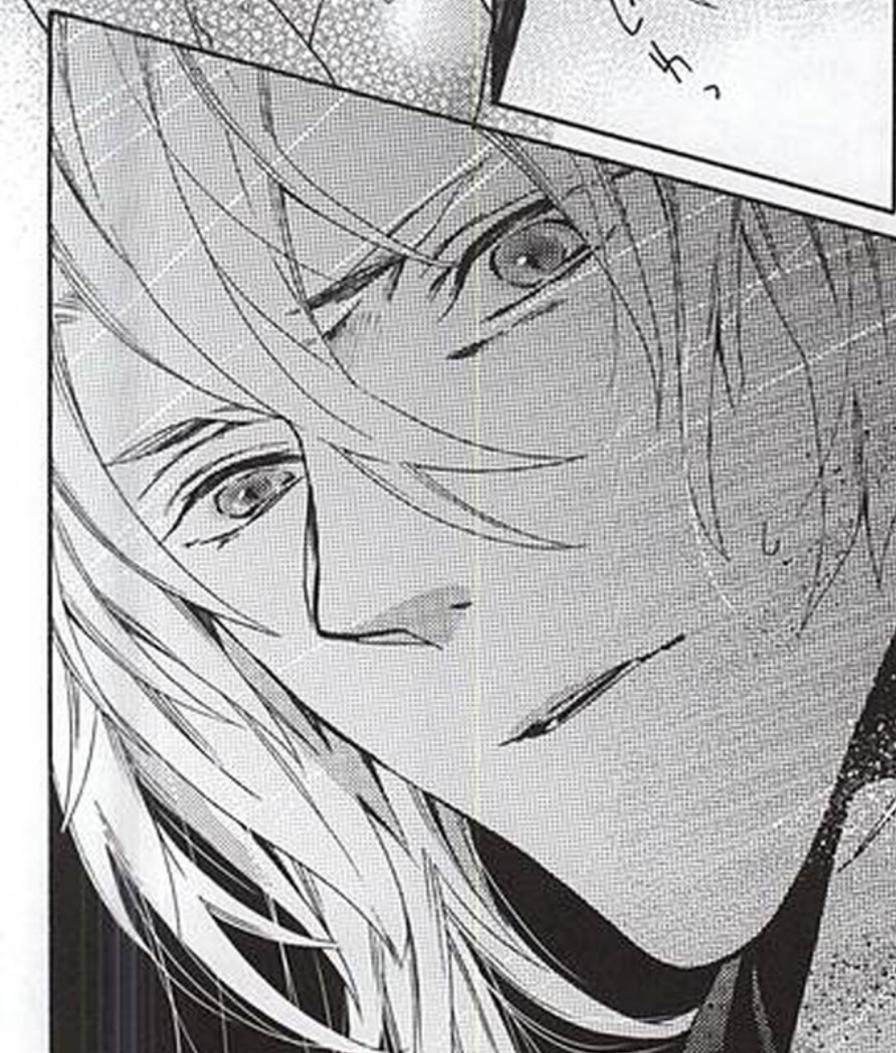
待って!

おねが...



いっ

か
らっ







卑怯者…



ごめん…



は

ズルン

無防備な
姿を晒せば
抱くそと
脅して…

それでも
構わぬと
震えた子供を
見て見ぬ
ふりをした

こればかりは
どうしようもできん…





鳴狐のせい
に
した
か
っ
た
だ
け
じ
ゃ

POKELA ICIGO
TOUKEN RANBU
KOGITUN MARU NAKIGITUNE

